

乳がんに立ち向かう人の希望に



うえお乳腺外科 外来医長
久保田 陽子氏

日本人女性の乳がんは年々増加傾向にある。ライフスタイルの欧米化や晩婚・少子化によって、授乳機会が減少していることが原因とされている。乳がんはすべての年代の女性に発生するが、罹患率のピークが40代後半にあることが特徴で、うえお乳腺外科では手術前に乳がん女性が背負っているもの（子育て、仕事、介護など）を医師が聞いて、スタッフ全員でサポートする体制を敷いている。日本乳癌学会認定乳腺専門医であり、外来

医長として女性の視点で乳がん女性に接しているが、自身が結婚・出産を経験して「乳がん治療に立ち向かう女性やご家族のお気持ちにより一層寄り添えるようになりまし」と振り返る。そんな中でも、「将来、ママになりたい」という若い乳がん女性の支援に力を注いでいる。乳がんは術後薬物療法が充実しているが、抗がん剤による卵巣機能低下やホルモン療法期間が5〜10年と長いことから妊娠しにくくなるケ

病院DATA

- 診療科目
乳腺外科
- 診療時間(完全予約制)
月・火・水・金・土 / 8:30~12:00、13:30~15:30
- 休診日
木曜、日曜、祝日



患者さん寄贈の作品ギャラリー

スが多い。そこで注目を集めているのが、薬物治療の前に受精卵・卵子を凍結保存して将来の妊娠・出産に備える「妊孕性温存」という方法。生殖補助医療の進歩で、がん患者も妊娠出産を望めるようになった。大分県では2014年に県内の乳腺外科の施設と生殖医療機関が連携した「おおいた乳がん・生殖医療ネットワーク」が発足。女性の乳腺外科の医師として中心的役割を担い、18年には同ネットワークの成果をまとめた論文を発表し

た。「乳がん治療後に母親になりたいという願望に応えるのも、乳腺外科の医師としての大切な役割です」と決意を語る。外科の医師である父親、看護師の母親の薫陶を受けながら大分で育ち医学部へ。卒業後に外科の医師を志した時から、自分に与えられた使命を模索して来た。今、その答えが見つかったことを実感している。「乳がんに立ち向かう全ての世代の女性に前向きな気持ちになっていただけるように、大分の患者さんのために頑張りたいです」

